

『やさしく』 『つよく』 『かしこく』

【令和6年度重点合言葉】 早寝・早起き・メディアコントロール



上河内東小学校だより

令和6年度 12月号

発行責任者 清水敬信

今年もあと少しです！

12月26日（木）から冬休みに入ります。月日が流れるのは早いもので2024年が終わろうとしています。4月から9か月間、日々の生活やいろいろな行事をとおして、子どもたちはそれぞれに大きく成長したと思います。今日まで本当にありがとうございました、改めて感謝申し上げます。まだまだこれから、令和6年度は、冬休み明け3月まであります。今後も御支援・御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

収穫を祝う会がありました！

12月12日（木）に収穫を祝う会を実施しました。いつもより時期としては遅いですが、学年ごとに自分たちの作った作物を紹介し、環境委員会、集会放送委員会が用意した、野菜に関するクイズに縦割り班で答えるなど楽しい時間を過ごしました。また、昨年の収穫を祝う会で初お目見えした「上河内東小学校の歌」をみんなで元気に踊りました。



上河内地域学校園 児童生徒指導強化連絡会

12月5日（木）に第2回児童生徒指導強化連絡会がありました。上河内地域学校園の小中学校の校長、児童指導主任などが集まって児童生徒指導について確認をする会です。河内教育事務所学校支援課副主幹 野口 幹 様からためになるお話を聞いたのでご紹介します。

☆援助希求能力(SOSを出す力)の育成

○援助希求能力（SOSを出す力）の必要性

子どもは、大きな悩みを抱え込んでしまった場合、問題行動等や不登校、身体症状、自傷行為、自殺未遂など様々な形でストレス反応を示す。

このような状況に至る前に、まずは、子ども自身が信頼できる大人や友人に相談するなど、他者の力を借りながら悩み等を解決していくことは、生きる上でとても大切なことである。

解決することが困難な悩みやストレスを抱えたとき、誰かに相談し助けを求める（SOSを出す）力は、しなやかにたくましく生きていく力であり、子どもたちにも積極的に身に着けさせていくべき力である。

○援助希求（SOS）を出しづらい背景とは

- ・日本特有の、我慢することや弱音を吐かないことを美徳とする風潮
- ・更に悪化することや馬鹿にされることへのおそれ
- ・親や先生を困らせたくないという思い
- ・相談しにくい雰囲気
- ・相談しやすい大人や友達がいない
- ・助けてもらえなかった経験や聞いてもらえなかった経験

○援助希求（SOS）を出しやすくするために

子どもたちが誰かに相談して助けを求める（SOSを出す）には、大きな勇気が必要。

子どもたちにSOSを出すことは、たくましく生きていく上で大切な力「たくましき」や「強さ」なのだと伝えていく必要がある。

子どもたちが感じている「SOSを出すことへの抵抗」を軽減できるよう努める必要がある。

- ・どんな悩みでも、またどんな表現の仕方であっても、全力で受け止めること
- ・子どもの言動の背景にあるSOSを感じ取ること
- ・子どもが主体となる活動の機会を増やすこと
- ・日頃から、結果や数字ではなく、取り組む過程や姿勢に価値付けを行うような言葉かけをすること
- ・問題解決に向け教師も一緒に考えるようにすること

上記のような内容のお話を伺いました。本校は12月2日（月）から定期教育相談週間でした。子どもたちに助けてもらえなかった経験や聞いてもらえなかった経験をさせないように、悩みやSOSを全力で受け止め、問題解決に向けて一緒に考えていこうと思います。ご家庭でも、お子さんがSOSを出すことができるよう、よろしくお願いいたします。